
本学の組織

図書館について

健康保健センターについて

国際交流センターについて

教職支援センターについて

神戸常盤地域交流センターについて

神戸常盤ボランティアセンターについて

図書館について

図書館は、みなさんの学習・研究のための施設です。どんどん利用して学習研究活動に役立ててください。図書館は、みなさんの自学自習を応援します。

開館時間

授業のある期間

月曜日～金曜日 9：00～18：30

土曜日（授業日・補講日） 9：00～14：00

授業のない期間

月曜日～金曜日 9：00～17：00

休館日

授業日・補講日以外の土曜日、日曜日、国民の祝日、本学創立記念日、年末年始、蔵書点検等の整理期間

*その他 臨時開館・臨時休館および開館時間の変更は、HP・図書館玄関・インフォメーションロビーの図書館開館カレンダーでお知らせしていますのでご確認ください。

館内閲覧

1. 館内はすべて開架方式です。書棚から自由に取り出して利用してください。
2. 利用済みの図書は、書棚横にある返却台に置いてください。書棚に戻す必要はありません。

集密書架の利用について

集密書架の資料の利用にあたっては、他の人の利用に十分気をつけてください。

書架に入る時には必ず書架が動かないように、前後の書架をロックしてください。

館外貸出

自動貸出返却機、またはカウンターで手続きをしてください。

1. 貸出期間 2週間

*貸出延長は予約のない場合に限り1回可能です。手続きをした日から2週間貸出期間が延長されます。返却期限日までにWeb上、自動貸出返却機、またはカウンターで手続きをしてください。

2. 貸出冊数 7冊まで

*事典・雑誌・紀要・新着図書・DVDは、貸出できませんので、ご注意ください。

図書の予約

貸出中の図書を次に借りたい時、予約ができます。Web上、または「図書予約申込票」に記入し、カウンターで手続きをしてください。なお、取り置き期間は貸出可能の連絡より1週間です。

貸出図書の返却

- ・返却期限日までに自動貸出返却機で手続きをするか、カウンター、または図書返却口にお返しください。
- ・返却期限を守ってください。返却期限に遅れた場合、1日1冊につき1日、館外貸出を禁止します。
- ・閉館時には図書館玄関右側にある図書返却口にいらしてください。

- ・資料を破損、汚損、紛失した場合には速やかにカウンターに申し出てください。原則として**現物で弁償**してください。
- ・卒業、退学等学籍を離れた場合および、休学する時は貸出中の図書は、必ず返却してください。

文献複写

図書館内では、著作権法31条の定める範囲内で図書館所蔵の資料を複写することができます。文献複写はセルフ方式ですが、「文献複写申込書」に記入し、カウンターで確認を受けてください。所蔵の資料以外の本やノートのコピーは、著作権法の定めにより、図書館内ではできませんので、ハローホール、学生支援課、4号館2F廊下のコピー機をお使いください。

施設・設備の利用

1. グループ学習室

グループ（3名以上）での学習や研究のために利用できます。「グループ学習室利用申込書」に記入し、カウンターで申込をしてください。グループ学習室利用の注意を守ってご利用ください。

2. パソコン

蔵書検索性・文献検索性端末を設置しています。自由にご利用ください。Chromebook（学内限定で館外利用可・貸出当日限り）の貸出は、学生証を提示して、カウンターで申込をしてください。学生プリンタの利用ができます。

3. 視聴覚ブース

DVDの視聴ができます。自由にご利用ください。私物の資料の視聴はできません。

利用上の注意

1. 入館・図書の貸出は、**学生証のバーコードで行います**。入館時には学生証をご持参ください。
2. 図書は大切に取り扱いってください。**書き込みや線引きはしない**でください。
3. 借りだした図書を他の人に貸すことはできません。
4. 館内では他の利用者の迷惑にならないように静かにしてください。
5. 館内で**飲食はできません**。飲食物は館内に持ち込まないでください。
6. 館内での**携帯電話の通話は禁止**です。マナーモードに設定してください。
7. 濡れた傘の館内持ち込みはできません。傘立てにいれるか、傘袋に入れてください。
8. 私物や図書を机の上に放置しないでください。貴重品は常に身につけてください。
9. その他、図書館員の指示に従ってください。

図書館オンデマンドガイダンス

利用方法、図書・文献の探し方などについてのガイダンスをWeb上で公開しています。【図書館ホームページ>学修支援>オンデマンドガイダンス】

対面でのオンデマンドガイダンスを希望される方は、前日までにお申込ください。（平日10時～17時）個人でもグループでも都合の良い時間帯に、必要な内容で、ガイダンスを実施します。

- ・図書館利用ガイダンス：図書館の利用方法について（20分）
- ・図書・雑誌の探し方ガイダンス：所蔵している図書・雑誌の探し方について（30分）
- ・文献検索ガイダンス：データベースを使った文献検索の方法について（30分）

図書館ホームページ

お知らせ・図書館カレンダー・利用案内・蔵書検索・文献検索・電子書籍などのご案内をしています。各種申込では、学習図書購入希望申込（リクエスト）などWeb上でできる申込、マイライブラリの案内をしています。マイライブラリのパスワード発行申込をすると、Web上で図書の貸出延長や予約の手続き、自分の借りた図書や予約状況の照会ができるようになります。

<https://libweb.kobe-tokiwa.ac.jp/>

健康保健センターについて

本学には健康保健センター（健康管理室、学生相談室、障がい学生支援室）があります。

健康保健センターは、学生のみなさんが心身共に健康に学生生活を送れるようみなさんのところとからだをサポートします。健康保健センターは研究室棟1階にあります。

【健康管理室】

健康管理室は、定期健康診断の実施や、健康診断書の交付、健康相談や、怪我、病気などの緊急対応をします。

1. 定期健康診断

定期健康診断は、「学校保健安全法」第13条に基づき毎年実施されます。検査項目は内科検診・胸部X線・身長・体重・視力・尿検査です。これらの項目をすべて受診していないと各種証明書の発行が停止になりますので、学生のみなさんは、必ず受診してください。受診した結果については、5月中旬頃までに全学生に配布します。受診結果について心配があれば、健康保健センターにご相談ください。

健康診断の結果により、必要と認められた人については、欠席または休学を命ずることがあります。

2. 健康診断書の交付

就職、実習などで健康診断書が必要な方は、学生支援課まで申込をしてください。

申し込み方法 証明書発行願（学生支援課カウンターに設置）に証紙（200円・本館3階事務局内の証紙券売機にて発売）を貼付のうえ、学生支援課まで申し込んでください。

申し込み受付時間／平日9時～17時 土曜日 9時～14時

交 付／申し込み翌日10時30分以降

学生支援課カウンターに領収書を持って取りにきてください。

3. 健康相談

医師および看護師による健康相談。健康に関することについて気軽に相談してください。

担 当 本学教員（医師・看護師）

詳細は健康保健センターにお尋ねください。

4. 救急対応

みなさんが、安心して学生生活を送れるよう、急な病気や怪我等に対し医師・看護師・養護教諭が対応します。救急の場合は、健康保健センター、学生支援課まで申し出てください。

5. 各種ワクチン接種歴および抗体価の記録・保管

各学科臨地実習に入る前までに必要とされるワクチン接種歴およびワクチン抗体価の記録を健康保健センターで保管し、必要時に関係機関に提出できるようにします。

6. 健康保健センターニュースの配信

現在流行している感染症の情報や対応などを適宜学内掲示板に発信しています。

【学生相談室】

学生相談室では、以下のとおりカウンセラー・健康保健センター職員による学生相談を設けています。

1. カウンセラーによる学生相談

カウンセリングルームでは、カウンセラーの先生が相談を受けています。

人間関係について、学業について、自分自身のことについて、恋愛のことについて、体調不良など、「こんな事を相談にいてもいいのかな・・・」と思うようなことでもかまいません。

どんな内容でも受け付けます。なお、相談内容の秘密は厳守します。

<開室日時>

※授業時間割・年度により変動しますので、年度初めのガイダンスや広報物で確認してください。

<利用のしかた>

・開室時間に直接カウンセリングルームへお越しください。

相談中でなければ利用できます。

・以下の方法で予約もできます。

予約専用メールアドレス counseling001@kobe-tokiwa.ac.jp を利用

・学籍番号、名前、相談希望日時（第3希望まで）を送信してください。

・相談日時の結果は、健康保健センター職員より後日返信します。

※緊急でカウンセリングを希望する場合は、代表電話（078-611-1821）

に問い合わせください。



<場所>

本館3F学生用掲示板の裏側の廊下つきあたり手前

2. 健康保健センター職員による学生相談

ちょっと話を聞いてほしい時、誰かに話したいけど誰に話したらいいのかわからない時、カウンセリングルームが開いていない時……。そんな時、気軽に相談できる場として活用してください。

予約は要りませんので直接健康保健センターを訪ねてください。

【障がい学生支援室】

身体障がい、精神障がい、発達障がい等により、修学上、日常的な個別の支援が必要な学生に対し、本人からの希望があった場合、学科や関係部署と連携し支援を検討していきます。支援を希望する学生は、健康保健センターを訪ねてください。

国際交流センターについて

国際交流センター (GCC : Global Communication Center) は、ネパール交換研修の実施、基盤教育科目「国際理解」の開講、医療系科目「国際保健医療活動 II」「看護アラカルト」・教育系科目「海外研修」の開講、オーストラリア語学研修の実施、English Room の開催、「異文化体験プログラム」の開催など、みなさんの国際交流活動のサポートを行っています。また英語を主とする外国語書籍、CD 等、語学学習設備の提供なども行っています。各学科に国際交流センター委員が配属されており、また学生支援課に担当職員がおりますので、興味のある人はたずねてみてください。

主なプログラム

1. ネパール交換研修制度

1997年に本学同窓会とネパール王国(当時)カトマンズ市のハチガウダ福祉協会との間で姉妹提携が結ばれ、隔年で学生を派遣する交換研修制度が発足しました。本学の研修生は、感染症・眼疾患診療所/医学研究・教育研究センター (Shiba Kuti) を研修拠点として、首都カトマンズの医療、教育関係施設などの見学を行います。また、福祉協会会員宅にホームステイしながら、異なる文化・宗教・習慣・価値観等を体験します。これらの研修で得たことは、帰国後、大学祭などで発表することとしています。

2. 基盤教育科目「国際理解」

海外に行くことに興味のある人、また、異なる文化に触れてみたい人などを対象に、国際交流センターが主体となり基盤教育分野科目「国際理解」を開講しています。この科目は異なる文化的背景や価値観を持つ人々と共生する受容力を身につけることを目的に、異文化体験をしたゲストスピーカーの講水質をデータ化することが可能になり、義を聴き、多文化共生について理解を深めるものです。

3. 医療系科目「国際保健医療活動 II」「看護アラカルト」・教育系科目「海外研修」

「国際保健医療活動 II」・「看護アラカルト」・「海外研修」の各科目を各学科と共同して開講しています。いずれも事前研修において訪問先の医療、保健事情もしくは教育事情について学び、予め日本との比較を行ったうえで現地を訪問します。帰国後は事後研修にて訪問報告及び討論会を実施し、各国の理解をさらに深めます。「国際保健医療活動 II」は、「大学コンソーシアムひょうご神戸」に科目開放しており、参加を希望する他大学の学生とともに学べるプログラムです。

4. オーストラリア語学研修

2025年度よりオーストラリアにあるニューサウスウェールズ州立職業訓練専門学校 (TAFE) ニューカッスル語学学校にて研修を実施しています (隔年実施の予定)。全学部学科学年の学生が対象です (実習、補講、試験と重なる場合は対象外)。ホームステイをしながら、コミュニケーション力を高め異文化体験により視野を広げます。

5. English Room

ネイティブ英語講師による English Room をラーニングコモンズで週一回開催しています。予約不要で気軽に参加することができ、楽しみながら英語のスピーキング力向上を図ることができます。

6. 異文化体験プログラム

「国際クッキング」、「ネパール語講座」などの異文化体験プログラムを定期的で開催しています。また本学は神戸国際コミュニティセンター (KICC) と包括連携協定を結んでおり、神戸市の国際交流・多文化共生の推進に寄与することを目的に、KICC の異文化体験プログラムの紹介も行っています。

教職支援センターについて

1. 教職支援センターの目的と役割

本センターは、中学校教諭、小学校教諭、公立幼稚園教諭・保育士、養護教諭を志す学生への進路支援を目的とした活動を実施しています。具体的には、学生支援課や就職委員会、関連学科とも連携し、学生が主体的・意欲的に夢実現に向けてキャリアアップが図れるよう教職等支援を行います。

そのために、主に次の3つの役割を担っています。

(1) 採用試験対策の実施

実際に行われる、1次試験(一般教養・教職教養、専門教養)、2次試験(集団・個人面接、集団討論、場面指導、模擬授業、模擬保育、実技試験、論作文等)に備えて、自主勉強会の場と教材の提供。学力把握テスト・模擬試験の実施。

(2) 採用試験関連情報の提供

中学校教諭、小学校教諭、養護教諭志望者、公立幼稚園教諭・保育士志望の学生へ、情報提供。志望自治体の選択や効果的に試験対策に寄与する情報をタイムリーに発信。また、試験対策に欠かせない過去問題集・参考書、小中高等学校の教科書等を備え、いつでも閲覧可能に整備。

(3) 関連学科との連携

教職等の実践者として必要な感性を磨き、モチベーションアップを図る機会の支援。現場体験活動(スクールボランティア等)や教育実習(教材研究、模擬授業)への支援。合格者座談会等実施への協力。

関連学科と連携し、学習状況の把握や指導・相談業務を行い、「教員採用試験を突破する力を身につけたい」という学生の願いを常に支援しています。

2. 教職支援センターの主な活動内容

次々ページの『Step Project』に示すように、入学前時から採用試験本番を迎える4年次までを見通したProjectチームによる支援を学科の先生方と協力して実施しています。学生たちの「学びたい」という主体性を大切に、意欲が持続できるように支援します。

(1) 各学年のステップの概要

- ①1年次・・・ 通年を通して学生の『学習会』を支援しています。必要に応じて、学び方の習得をアドバイスしたり、情報キャッチの方法を提示したりしています。
- ②2年次・・・ 学内スタート模試や、学生たちのチームごとの学習会の場と資料の提供と支援を行います。3年次からの採用試験を行う自治体が増えているので、この時期に過去問を攻略できることが大切です。
- ③3年次・・・ 全国公開模試の実施をします。3年生が中心ですが、採用試験の3年次受験が始まった自治体もあるので、1年次からの模試への参加を勧めています。
- ④4年次・・・ 採用試験本番に向けて、集団・個人面接、集団討論、場面指導、模擬授業、模擬保育、実技試験、論作文等の人物試験対策を行います。志望自治体の特色に応じた準備・点検が必要です。関連学科の先生方と協力のもと、夏季休業中はその仕上げになります。また、採用試験詳細情報の把握、志願書提出等も万全を期して支援します。

学生の志望職種・自治体、学力、学びの環境は、一人一人異なります。学生のニーズ、その年次に合った支援ができるように多くの学びの場と支援を提供しています。

(2)「教職等支援プログラム」について

①学力把握

自分の実力を知ることは学習の第一歩です。

- ・学内スタート模試（11月ごろ）で自分の実力を把握します。苦手、弱みを見つけ、自分に必要な学習からスタートできるようにします。
- ・全国公開模試（2月）学力の現状把握を行い、次の学びへのステップとします。
- ・幼保模試（2月）学力の現状把握と振り返りを通して、進路決定等にも役立てます。

②自主勉強会

一人で学ぶ、友達と学ぶ、学ぶスタイルは一人一人異なりますが、友達と学ぶことによって、モチベーションが維持できたり、みんなで乗り越えようという協働的な学びが生まれたりします。わからない問題には、学科の先生方が質問に応じてくださいます。

③eラーニング

基礎学力と就職活動力の向上のために、WEBサービスを利用したeラーニングを導入しています。1年次からTokiwawa'sラーニング(eラーニング教材)によるICTを活用した基礎学力の定着、学力の維持向上や学習の習慣化を図っています。公立保育士・公務員試験対策のため、SPIコースも導入しています。学生たちは、パソコン、スマートフォン、タブレット端末などを利用して、通学や空き時間を利用して、学びたいと思った時にいつでも学んでいます。

Tokiwawa'sラーニングでも、実力診断テストが行え、自分の学力レベルやその推移をすぐに自分で確認することができます。

3. STEP Project とは

STEPとは、Support、Teach、Empower、and Prepareの略で、教職支援センターが教員・保育士志望学生に提供するサービスの内容を表しています。教師は、子どもたちに学びの支援をし、教えることを通して力を与え、将来に備えることを目指します。STEP Projectでは、教員・保育士志望学生が自分の夢や目標に向かって一歩ずつ進むことを応援します。

(1) 対象

- 公立保育士・幼稚園教諭志望学生 2・3・4年生
- 小学校教員志望学生 2・3・4年生 中学校教員志望学生 2・3・4年生
- 養護教諭志望学生 2・3・4年生

(2) 学生へのメッセージ・合言葉

本Projectでは、学生が志を共にする仲間と共に高めあう学習共同体の形成への期待（Yearning for Empowerment and Synergy）また、夢を実現するための卓越性と結束性への期待（Yearning for Excellence and Solidarity）を込めて、合言葉を「YES！」としています。

本Projectでは、教員・保育士志望学生の全員が自分の可能性を広げ、仲間と共に切磋琢磨し、挑戦する姿を全力で支援します。本Projectは、学生の努力の成果が実を結び、「YES！（やった!）」といえる日まで支援することをここに約束します。

(3) プロジェクトのねらい

教員としての自己理解や自己分析は、教育実践やキャリア形成において重要です。そこで、本Projectでは、教員・保育士志望学生が主体的・協働的に学び合う自主学習活動を提案します。このProjectでは、教職支援センターのツールやプログラムを活用して、学生自身の目指す教員像・保育士像を明確にします。また、学生同士が意見や情報を交換して、共通の課題や問題

に取り組む仕組みを構築します。これにより、コミュニケーション能力や協働力、多文化理解力などの教員・保育士として必要な資質や能力の育成を目指します。さらに、学生が自身の目標や進捗状況を記録し、メタ認知ができる仕組みを学生自身の手で構築します。本 Project は、学生の学びやキャリア形成を最大限に機能させるためのものであり、ここでの学びは、就職後の学び続ける教員・保育士としての資質・能力の基盤を育成することにもつながると考えています。

(4) プロジェクトにおける支援者（教職支援センターと職員）

教育とは「発達への助成的介入」であり、教員とは、学生の学びの構築をより豊かに発展することができるように足場かけを行う支援者です。この理念に基づき、本 Project では、教員はファシリテーターとなり、学生の学びをフォローします。具体的には、公立保・幼コース、小・中学校教員コースに分かれ、それぞれの学生の特性やニーズに合わせ、学生主体の学びを支援します。しかし、学生の主体性を重視するため、教員からの指示は原則行いません。ただし、初期段階における情報提供、中期段階での学習進捗、協働的な学びの促進への介入は行います。また、個別相談にも対応します。

(5) 具体的な活動例

本 Project は、学生主体の Team での活動を主としています。以下はこれまでの活動例です。

① Team 単位での学習会

- ・ Team で教員採用試験対策問題を作成し、回答と解説を相互に行う。
- ・ 学習範囲を決めて自主学習を進め、対面で分からない問題を教え合う。

② グループ SNS を利用した情報共有・教え合い

- ・ 教員採用試験情報の共有。
- ・ 自宅学習時に解けなかった問題の解説を仲間に依頼する。

③ 教職支援センターとの連携

- ・ 各教科における学習方法について、教員と学生が情報交換をする（学習方法交流会）。
- ・ 受験する自治体の採用試験問題出題傾向分析の実施。

④ キャリア支援企業（マイナビ・ラインズ）との連携

- ・ STEP 活動の開始時に社会人基礎力診断を実施し、Team 内で結果を共有することで、互いの強みや役割分担への理解を深める。
- ・ 年間を通じて Web テストやデジタルドリルを活用し、Team 全体で学力の進捗を確認しながら教員採用試験に向けた学習を支援する。

ここに挙げた活動は一例です。Team や学生のニーズに応じて、実施するプログラムは異なります。学生主体の学習プログラムの構築は、他大学には無い、本学独自の取り組みです。

(6) Project Character 『LaNiMoRi』

本 Project は、教育に関する人的・物的環境が相互につながっていく「豊かな学びの場」の形成を目指しています。また、「まなぶる ▶ ときわびと」において身に付けたチームビルディングの意義と手法を大切にすることで「豊かな学びの場」の実現を目指しています。

本 Project に参加することで、教員・保育士志望学生の皆さん自身の器に個人の努力、仲間との高め合い、そして何よりも教職に就くという情熱を詰め込み、質・量ともに満たされた「豊かな学び」を実現してほしいとの願いを込めて、右のキャラクターを構想しています。



LaNiMoRi(ラニモリ)

神戸常盤地域交流センターについて

本学は、「地域社会の発展に寄与すること」を建学の精神に掲げるように、神戸常盤短期大学時代より、地域の方々や卒業生たちが生涯にわたって学習できるリカレント教育並びに公開講座などを行う「神戸常盤エクステンションセンター」を開設するなど、「地域と共に歩む大学」として、地域社会に貢献する活動を実施してきました。

神戸常盤地域交流センターとは？

本学が行う地域交流・連携及び社会貢献の総合窓口として、大学と地域を、また学生と地域を繋ぐ「かけ橋」として神戸常盤地域交流センター（以下、「地域交流センター」という。）が誕生しました。地域交流センターは、学生の皆さんが地域社会をフィールドに、教育課程内外を通じて、所属学科の特性を活かした様々な活動を展開し、社会人として、また専門職業人として必要な「力」を伸ばしていく場所です。大学の中では学べない、教科書だけでは学べない経験が、皆さんの「学び」に繋がります。

わいがやラボとは？

地域交流センターの活動拠点、すなわち学生の皆さんの活動を推進する場所として、本館5階に「わいがやラボ」があります。学生同士の交流はもちろん、地域の方々とも交流できる場所、また楽しく集える空間です。

また、学生の皆さんが、地域に貢献できる活動などを自ら企画できることが最大の特徴です。

- ・ 地域をフィールドとした学生主体の企画スペース
- ・ 地域住民との交流スペース
- ・ ボランティア活動スペース

地域交流センターの主な取組

地域交流・貢献活動

TOKIWA 健康ふれあい
フェスタ

学園全体を挙げて、毎年、地域の皆さまを対象に、子どもから大人、高齢の方まで楽しめる様々な健康に関するイベントを学生の皆さんが中心となって実施しています。例年来場者は1,000名を超え、神戸常盤の一大イベントとして、地域の皆さまに大変喜ばれています。今年も学生の皆さんの積極的な参加を期待しています。

地域との連携

神戸市長田区と連携し、学生が長田区内のイベントを企画・運営するなど、長田の“まちづくり”に参画しています。また、要請に応じて教職員が各種委員を務める等相互連携を行っています。

その他、淡路市岩屋地区活性化プロジェクトや香川県小豆島町における地域交流合宿、福島県双葉町にある東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れる福島研修等、様々な地域と連携し、「地域で学ぶ・地域と学ぶ」を合言葉に活動を行っています。

生涯学習

公開講座

心の豊かさを求めて、「健康」・「医療」・「福祉」・「教養」等、本学の特色を活かした講座を開講しています。普段の授業とは違う視点からの講義や他学科の先生の講義が聞ける貴重な機会です。

是非この機会を活用して更なる学びを手に入れてください。

地域交流センターのプログラムに参加するには

〔地域交流・貢献する活動〕

最新情報はこちら

- ・ポータルシステムの「お知らせ」情報
- ・本館3階の地域交流センター掲示板

参加したい活動があったら

- ・本館5階にある「わいがやラボ」にて参加申込

活動へ参加

地域で行われている活動や本学と地域が共に行う活動へ参加し、地域の課題や課題解決に取り組む地域の人々の思いに触れてみてください。

〔公開講座〕

最新情報は「ハロとき」、掲示板、本学ホームページ

- ・年2回発行の「ハロとき」
(本学事務局 総務課備え付け)
- ・本館3階の地域交流センター掲示板
- ・本学ホームページ

受講したい講座があったら

- ・申込 Web フォーム、ハガキ、FAX で申込

受講者の決定・手続き方法は直接連絡

受講決定者には受講のご案内をメールにてご連絡いたします。

神戸常盤ボランティアセンターについて

ボランティアセンターとは

ボランティアセンターは、学生のボランティア活動を全学的に支援・推進することを目的としており、この目的を達成するために、以下の4つの役割を担っています。

- 1) ボランティア活動に関する情報収集・広報活動
- 2) ボランティア活動に関する相談・支援活動
- 3) ボランティア活動に参加する学生の人材養成
- 4) 地域住民や関係機関・団体との連携・協働

学生はボランティア活動をとおして、地域貢献・社会貢献に寄与できるとともに、実学を重んじる建学の精神をまさに実践することによって、カリキュラムでは学び得ないことを学び、自らのさらなる成長へと繋げることができます。

ボランティアセンターが行ってきた活動

- 1) 地域でのボランティア活動（主なものを抜粋）
 - ・一七市拡大版（障がい者地域活動支援）
 - ・1.17KOBEに灯りをinながた（阪神・淡路大震災追悼行事の運営協力）
 - ・「LOVE49」子宮頸がん検診受診啓発キャンペーンボランティア
 - ・児童館や高齢者施設、障がい者施設等の行事ボランティア
 - ・地域防災訓練等における炊き出しボランティア
 - ・災害ボランティア活動

大規模災害発生時には社会福祉協議会等関係機関と連携し、現地での緊急支援活動を実施しています。

ボランティアセンターでのボランティア活動に参加するには

- 1) ボランティア情報を入手する
 - ↓ ボランティアセンターからのメール情報
 - ↓ ボランティアセンター掲示板による情報
- 2) 参加したいボランティア活動があれば意思表示する
 - ↓ ボランティアセンターにメールを送信する
 - ↓ ボランティアセンターに直接来所する
- 3) コーディネーターによるマッチング
 - ↓ ボランティア活動とボランティアをしたい学生を繋げる
 - ↓ 学生の活動ニーズを把握しボランティアフィールドを探し、繋げる
- 4) ボランティア活動に参加する
 - ↓ 単発的なボランティア活動
 - ↓ 継続的なボランティア活動
- 5) 参加したボランティア活動に対する振り返りを行い、次の活動に活かす

MEMO